

カモ類及び猛禽類 生体捕獲調査計画（案）

生体捕獲調査の必要性

カモ類

- 鉛汚染状況について広域的かつ継続的なモニタリングが必要。
- カモ類は、環境中に飛び散った鉛弾を消化を助ける石として誤って摂取するリスクがある。
- 猛禽類等の高次消費者の餌資源。
- 個体数が多く、比較的容易に捕獲可能。
- ヒアリングにおいても、カモ類を対象としたモニタリングの必要性が指摘されている。

猛禽類

- 広域的・継続的なモニタリングと並行し、鉛汚染の実例があり、鉛汚染による存続可能性への影響が大きいと考えられる猛禽類を対象とした影響評価を検討。

対象種（案）⇒クマタカ

- 鉛汚染事例の多い猛禽類。
 - 本州においてシカ等の狩猟残滓の摂食が確認されている。
 - 希少猛禽類（種の保存法に基づく国内希少野生動植物種）
- データの充足が課題。

カモ類生体捕獲調査計画（案）

1) 捕獲対象種

各種カモ類

2) 捕獲目標羽数

年50～100羽（1地域あたり羽数×地域数）

- 1地域あたり年10～30羽を想定
- 年3～10地域を想定

3) 捕獲実施時期

冬期（10月～翌年3月）

4) 捕獲実施体制

ガンカモ類研究者、網猟師、鳥類標識調査員等と連携

5) 捕獲方法

各種の網や罟を用いて生け捕り。採血等の処置後、速やかに放鳥。

6) 捕獲候補地

下記を総合して選定

- 鉛汚染の懸念の程度
- 既往調査データの有無
- 捕獲成否の期待値



猛禽類生体捕獲調査計画（案）

1) 捕獲対象個体及び目標羽数

クマタカの成鳥または若鳥（自立しているもの）

- 1地域あたり年1～3羽を想定
※努力量によって変わる
- 年3地域程度を想定

2) 捕獲候補地（想定）

- 関東周辺
- 近畿周辺
- その他（全国に検体提供の協力を依頼）

3) 捕獲実施体制

- クマタカの捕獲経験が豊富な専門家と連携。

- 猛禽類の保定・処置の経験が豊富な獣医師の従事。

4) 捕獲時期

- 7月から翌年3月上旬までの期間。
基本的にクマタカの営巣期を避けて捕獲を実施。

- 対象ペアが繁殖していない場合、あるいは繁殖に参加していない若鳥の捕獲が期待できる場合には、7月以前の捕獲を試みることを検討。

5) 捕獲方法

上記の捕獲経験者が採用している安全性や確実性の高い方法で実施。

今年度の取組み

- クマタカの捕獲経験が豊富な専門家に同行して現地視察。
 - 関東周辺及び近畿周辺
 - 捕獲地となり得る場所（過去に捕獲実績のある場所、狩猟残滓等の処分場、その他）
- クマタカを想定した捕獲計画（案）を検討するために必要な、捕獲方法等に関する情報を整理。
 - 捕獲方法（網・罠等の手法、実施時期、誘引方法等）
 - 専門家との連携体制
 - 各候補地域における捕獲羽数の期待値